

## 愛荘町の指定文化財⑥

石 造

沓掛自治会管理

# 豊満神社への道標



平成二十七年一月に町文化財に指定された豊満神社への道標は、町道旧中山道線沿いの沓掛に在ります。

ちょうど、中山道が東南方向に分岐する沓掛の三叉路に在り、北向きに建てられています。文化三年（一八一六）に描かれた『中山道分間延絵図』にも『道印』と記され、当時既に建てられていたことが分ります。

道標は花崗岩の30センチメートル四方の方柱で地面からの高さが128センチメートルあり、総高132センチメートルのところまでコンクリートで根巻きして固定されています。下部は昭和三十年代に

事故で折損しました。この時、元の位置に立て直したといわれており、絵図とほぼ同位置である事がわかります。道標には建立の年代は記されていませんが、愛荘町に残されているものとしては最も古く立派なものです。

正面にあたる北面には「旗神豊満大社」、その土中より「拾・南」の文字が確認されています。「拾」は拾丁と刻まれていたものと考えられ、「南」は神社の方角を示すものです。これは『中山道分間延絵図』に記される「豊満村江道法拾丁」という文言とも合致しています。

また、東面には「願主何

某」と刻され、寄進者の名前を示していません。

豊満神社には、境内の竹を旗指物にすると戦に勝利するといういい伝えが有ります。往古、神功皇后（応神天皇の母）が朝鮮半島に出兵する折、豊満大明神がその旗頭となつてこれを扶けたという故事から、戦勝祈願の神様「旗神」として知られるようになり、戦争や賭け事で勝利することを祈る参詣客で賑わったようです。

中山道から奥まった場所にある豊満神社を参詣者に指し示すためにこの石標が建てられたものです。

大友暢（歴史文化博物館）

## 編集後記

昨年の12月定例会が、私たち現議員の任期最後の議会となりました。

これまで議会改革に取り組み、10年後のまちの姿の実現に向け、議会としても政策立案、調整機能を強化し、未来を先取る活力ある「まちづくり」推進のため、積極的に活動をしてきました。

また、昨年は新型コロナウイルス感染症の終息を願っていたにもかかわらず、依然として猛威を振るい、社会と私たちの日常生活の大きな変化とともに、感染防止対策に大変な一年でもありました。

この一月には、オミクロン株による第6波に突入し、本町でも2月4日から3回目のワクチン接種が始まりました。

日々感染状況が変化するなか、議会として適確な情報の発信に努めるとともに、わかりやすく、思いの伝わる議会だよりを目指してまいります。

今後ともご愛読いただきますようお願いいたします。

村田 定 記

### 【発行責任者】

議長 伊谷 正昭

### 【広報常任委員会】

委員長 森野 隆

副委員長 村西 作雄

委員 澤田 源宏

委員 村田 定

委員 河村 善一

委員 瀧 すみ江